

# 作左通信



第六十一号 平成二十五年六月十五日（土）発行

## 本多作左衛門はどんな人（その二）

◎作左衛門は秀吉が

許せなかった。

りさせようとなりました。

作左衛門などが承服せず

家康と同盟を結んでいた織田信長が、本能寺の変で倒されると、秀吉は、恩人である信長に遺子（信雄他）が居るにも拘わらず、主家を再興しようとはせず、関白に出世し、諸国の大名に人質を出させ、家来になるよう誓わせました。

秀吉は、自分の異父妹、十四歳の朝日姫を家康に娶らせ、義兄弟になる他はないと考え申し入れました。

家康は、やむなく承服し、朝日姫が輿入れしてきました。そこで秀吉は、再度、家康が大阪城に来て家臣になるよう促しましたが、家康は従おうとはしません。

岡崎城の留守を預かった作左衛門は、主君の身の心配し、大阪から送られた宿所の回りに薪を高く積み、万に一つ、主君が殺されたりした場合には、薪に火を付け大政所を焼き殺す手筈を整えました。

そこで更に七十四歳になる秀吉の実母の大政所を、人質として岡崎城に送ってきました。

この事は秀吉の心証を害し、後年、江戸を離れて、茨城県の取手に蟄居させられる原因の一つとなったのでした。

（横山 茂）



作左衛門生誕の碑（官地町）→  
作左衛門のお墓（取手市）←

